

夢に近道なし

校長 武井 正明

昨日の大相撲初場所千秋楽。豊昇龍が優勝決定巴戦の末、見事優勝した。

取組時の形相とは一転、あんなに笑顔のチャーミングな若者だとはわからなかった。

15日間の戦い。これは力士にとって、対戦相手と、そして自分自身と向き合う、長い闘いの時間である。

大関は中盤で早くも3敗を喫してしまった。横綱も優勝も、絶望と言ってもいい状況で、大関の心中は、いかばかりだったことだろう。

その時、師匠である立浪親方から「楽しくやれ」と言われ、その一言で迷いが消え、雲が晴れたような心境で、残りの日々を戦い抜いたということが、優勝インタビューで明かされた。

昨日の、特に巴戦は、何が何でも絶対に勝ってやろうという、湧き上がるような強い気迫が、他を圧倒していた。この人の相撲は、観る人に勇気と力を与えてくれる。

大関昇進後はケガにも見舞われ、何度も苦汁をなめた。決して楽な道程ではなかったはずだ。私はもう心身ともに機は熟したと思う。豊昇龍関に、ぜひ第74代横綱になっていただきたい。

吉中のみんなにも、それぞれ“夢”があるだろう。

ちょっとした努力で、一気に叶うようなものなどは夢だと言わない。でっかい夢に近道などないと断言する。実現しないと思っていたら、それは夢のままで終わるぞ。

人は生まれた瞬間から、置かれた状況が違う。決して平等ではない。でも夢を持つことと、それに向かって努力する時間は、みな平等に与えられている。苦境から夢を掴んだ先人はいっぱいいる。

頑張っ、て、叩きのめされて、不遇な時代も耐え抜いて、辛抱して、必死に涙をこらえて人知れず地道な努力を重ねてきたものだけが、夢を掴むのだ。

モンゴルから異国の地で、大きな夢に向かってがむしゃらにやってきた、ひとりの青年の瞳に美しい、栄光の涙が光った。

さあ琴櫻よ。悔しくないか。今の琴櫻は真っ暗闇のどん底だ。情けなさでいっぱいだろう。一からやり直した。ここから這い上がってみろ。照ノ富士は序二段から復活したぞ。それに比べたら、まだじゅうぶん挽回できる。

私は琴櫻が、ここから見事に復活して横綱になる姿を、ファンのみんなに見せてほしい。その過程を応援するのが、寧ろ楽しみだ。

私は信じている。

豊昇龍、琴櫻、そして海洋高校出身の、我らが大の里が、3人で綱を張って角界を堂々牽引している素晴らしき未来を!! 考えただけで、ワクワクする。